



新潟県新潟地域振興局長賞

『税金は未来へのバトン』

三条市立第三中学校 三年

佐藤 雅史
さとう まさふみ

私が暮らす新潟県三条市は、「ものづくりのまち」として全国に知られています。自然に恵まれ、歴史ある技術が今も受け継がれるこの街に、私は誇りを感じています。

最近、税金について考える機会があり、私たちの暮らしが個人の努力だけでなく、税金というしくみによって支えているのだと気づきました。税金は、私たちの生活と未来をつなぐ大切な「バトン」なのだ実感しています。

私の身の回りには、税金のおかげで当たり前利用できるものがたくさんあります。私が通う中学校の校舎やグラウンド、図書室の本や体育館の備品もそうです。放課後に自転車で走る道路も、安全に整備されています。もし税金というしくみがなければ、これらはすべて自己負担となり、今のように使えなかったでしょう。

さらに、税金は三条市の「ものづくり」の伝統を未来へつなぐ役割も担っています。職人さんの技術支援や、新しい製品づくりのための研究にも税金が使われています。それは単に産業を支えるだけでなく、この街の文化を守るための投資でもあるのです。税金は、

目には見えない形で、街の「魂」を守るバトンだと感じます。

三条市が毎月発行している「広報さんじょう」には、地域のイベント情報がたくさん載っています。図書館や公民館、体育文化センターのにぎわいを見るたび、人と人とのつながりや街の活気も、税金によって支えられているのだと実感します。税金は、三条市というひとつの大きな「家族」を支える力でもあるのです。

しかし、このバトンを未来へつなぐには、税金の使い道にもっと関心を持つ必要があります。少子高齢化が進む中、お年寄りが安心して暮らせる福祉や、子どもたちが健やかに育つための子育て支援は、より重要になります。若い世代が三条に住み続けたいと思える環境をつくることこそ、未来の三条市を支える基盤となるはずです。

税金は、ただ支払う義務ではありません。私たちがこの街をより良くするためのものです。みんなの税金が図書館の本になり、道路になり、そして子どもたちの笑顔につながっていくのだと思います。

将来、私が社会に出たときには、納税者として、税金がどのように使われるべきかを考え続けたいと思います。そして、この街で育った誇りを胸に、「未来へのバトン」をしっかりと次の世代へ渡していきたいです。

